

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

その他

オープンな協働空間と校舎の教材化による教育研究拠点



1階エントランス（地域産の大谷石の壁面）

基本情報

大学名：宇都宮大学
建物名：陽東8号館
工期：平成25年10月～平成26年3月
構造・階数：RC・地上5階
延床面積：4,265㎡
事業費（設計費含む）：572,972千円



PS・EPSの見える化

整備の方向性

○建築・土木系の実践的な教育研究の活性化

- ・第2期中期計画において、総合的なデザイン能力、課題解決型の教育（PBL）、地域社会への貢献を特色として掲げている。
- ・これらの一端を担う工学部建設学科、工学研究科地球環境デザイン学専攻の教育研究の活性化に向けた校舎改修である。
- ・建築から34年経つ校舎において、耐震補強・設備更新による安全安心性を確保するとともに、中廊下型で画的に分散していた実験室や研究室を再配置し、建築・土木系の実践的な教育研究に対応するフレキシブルな空間とした。
- ・デザインスタジオ、プロジェクトスペース、アーカイブ等の「オープンな協働空間」を確保し、校舎自体を教育や研究の素材とする「校舎の教材化」を推進した。

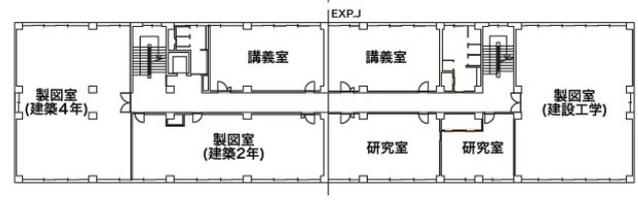
計画・設計上のポイント

○オープンな協働空間

- ・能動的で多様な学習が可能な「オープンな協働空間」を整備した。
- ・3階は、階や室に分かれていた学年毎の製図室をワンルームのデザインスタジオとして統合し、学年間の交流と多様な学習形態に対応させた。
- ・回転掲示板兼ホワイトボードや展示壁兼収納棚を設置し、製図、展示、発表等の多様な学習形態を展開する仕掛けとしている。
- ・1階には、吹抜の旧実験室を活用して、地域連携で利用できるプロジェクト・スペース、文献の効率的な収納と閲覧ができるアーカイブ、学内外の交流を促すエントランス・ラウンジを、開放的な外部テラスとともに整備した。

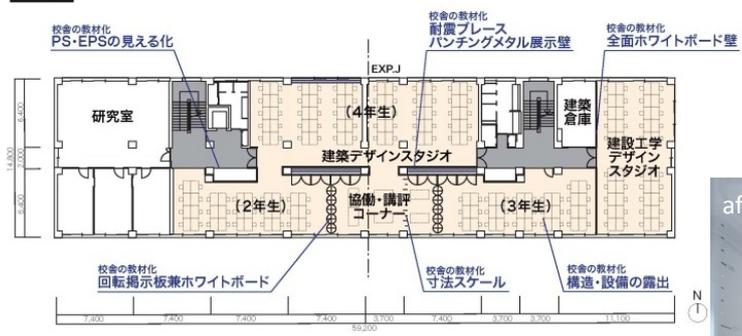
3階 デザインスタジオ

改修前

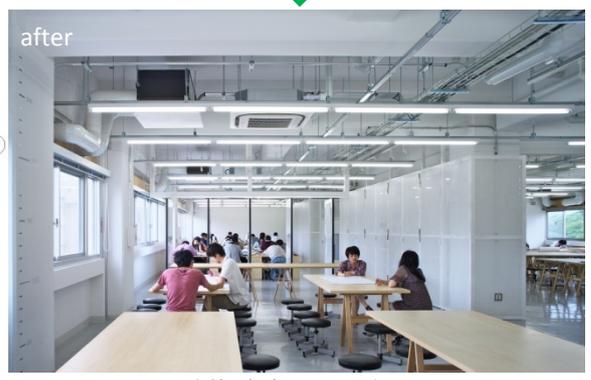


回転掲示板兼ホワイトボードを用いた講評会

改修後



before

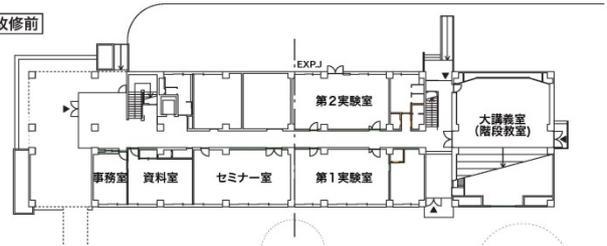


after

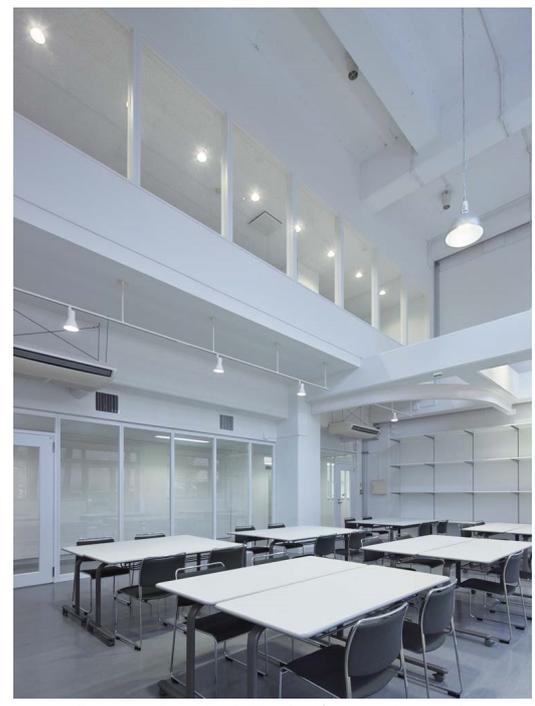
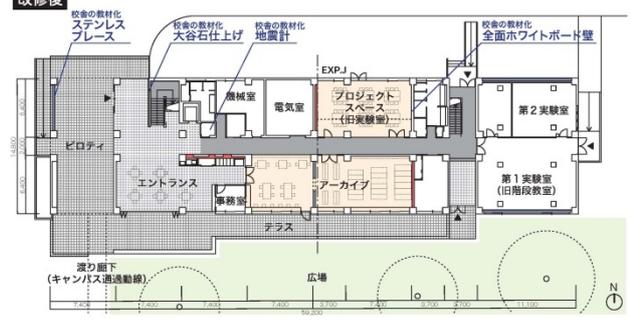
建築デザインスタジオ

1階

改修前



改修後



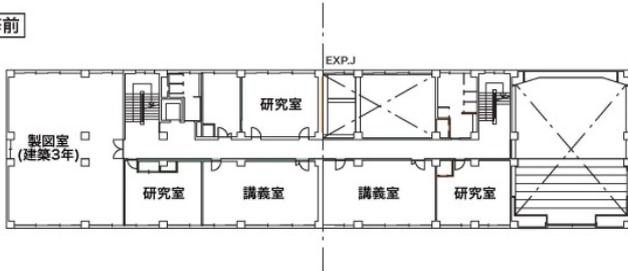
旧実験室の吹抜を活用したプロジェクトスペース

○フレキシブルな室配列と設え

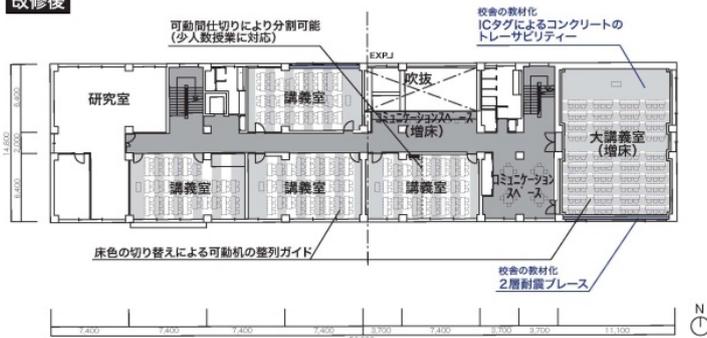
- ・ 2階の講義室は、従来の固定式家具から可動式家具に全て変更し、グループワーク等の多様な学習形態に対応した。また、大学院等の少人数授業のために、可動間仕切りにより分割可能な講義室を設けた。
- ・ 4、5階の研究室は、学生用の大部屋と教員用の小部屋によるシステムティックな配列とし、将来や年度毎の変化に応じたフレキシビリティを確保した。さらに、閉鎖的な中廊下を改善し、廊下と室の中間の「たまりスペース」としてのコミュニケーション・スペースを設け、自習、ゼミ、インフォーマルなディスカッション等に活用している。

2階 講義室

改修前



改修後



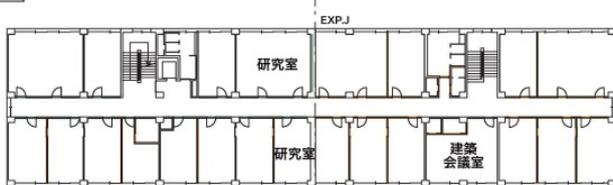
可動家具によるフレキシブルな講義室



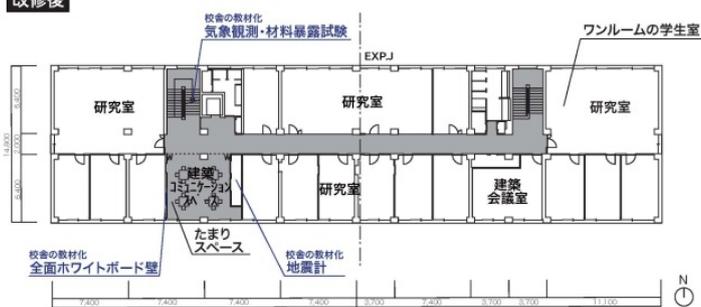
廊下を拡張した2階の自習カウンター

5階 研究室 ※4階はほぼ同一平面

改修前



改修後



ガラス間仕切りによる開放的な廊下とワンルールの学生室



階段・EV周りのコミュニケーション・スペース

施設整備の効果

○PDCAサイクルによる教育研究上の効果の検証

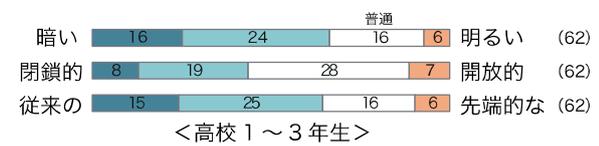
・デザインスタジオでは、全国卒業設計巡回展や、北関東の大学研究室合同のまちづくりシンポジウム等が開催され、県内外の建築・土木系の地域拠点として機能している。また、改修の前後のオープンキャンパスの際に、高校生・保護者を対象とする印象評価を行い、ポジティブな印象への大幅改善が得られたことで入学意欲の向上が期待される。さらに、改修前に課題抽出のために行った教員・学生に対する満足度・重要度調査を、改修後にも行い効果を検証した。これらのPDCAサイクルを通じた校舎改修による教育研究上の効果の検証を継続的に行っている。

外来者の印象の向上

校舎の印象について5段階で評価

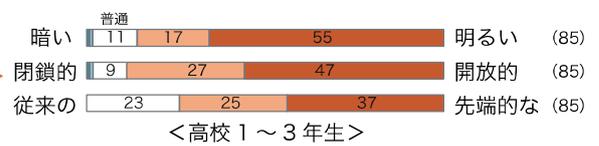
改修前 2013年度オープンキャンパス

ネガティブなイメージ



改修後 2014年度オープンキャンパス

ポジティブなイメージ



利用者の満足度の向上

各スペースについて、満足度を5段階で評価

改修前 製図室

満足度調査

建築3年生に「不満足」が多い



意見

- ・1つの室で多様な活動がしたい。(現状、複数の室を使って活動を行っている)
- ・学年間の交流(相談・手伝い等)が行いにくい。(各学年の製図室が廊下、階で隔てられている)

改修後 デザインスタジオ

満足度調査

建築3年生



- ・他学年との交流ができるようになった。
- ・展示壁が設けられたことで、図面展示の機会が増えた。

授業時間外の校舎滞在時間の増加

対象：改修前後共に校舎を利用している建築・建設工学3年

改修前



改修後

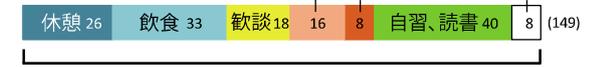


共用空間の多様な利用 改修後

授業時間外の利用状況

■建築デザインスタジオ

対象：建築2・3年生



■コミュニケーションスペース

対象：学部2・3年

